

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業大学校費

事業名 緑の学園開催事業費（国補）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

農政部 農業大学校 教務課 電話番号：0574-62-1226

E-mail：c24405@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 315千円（前年度予算額： 315千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	315	245	0	0	0	0	0	0	70
要求額	315	245	0	0	0	0	0	0	70
決定額									

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と取り組み内容）

将来就農を考えている高校2年生を対象とした体験実習や若手就農者等との交流を行う「緑の学園」、及び高校3年生等を対象とした「一日体験入学・学校見学会」を開催し、農業に対する理解、興味を深めるとともに、本校入学生の確保を図る。

平成28年度からは、従来1泊2日で実施してきた「緑の学園」を1日での開催とし高校生の参加を容易にするとともに、若い就農者との意見交換会等の開催方法を見直す等し、参加者がより農業に興味を持ってもらえるような内容になる様に努めている。

また一日体験入学についても、平成28年度からは、学生だけでなく父兄も参加できるようにし、従来のように保護者が改めて学校見学会に参加しなければならない様な事の無い様、保護者の負担の軽減を図っている。

なお、これら事業の実施に当たり、県内の高校訪問を行い、農業大学校への理解を深めてもらうとともに、行事への参加啓発を合わせて行う。

（2）事業内容

○緑の学園【対象：高校2年生】

参加者の農業に対する興味、関心がより高まる様、就農後数年経った比較的年齢の近い就農者との意見交換会の開催や、農業体験実習を実施する。

○一日体験入学【対象：原則高校3年生、既卒者、保護者等】

農業大学校の教育方針や実際のカリキュラム、寮生活への理解を深めてもらうため、学校紹介、ほ場・施設、寮等の校内案内に加え、実習を体験を実施。

○学校見学会【対象：高校生、既卒者、その他入学希望者、その保護者等】

ほ場・施設・寮の案内や、学校紹介を通じ、農業大学校に対する理解を深めてもらい、本校入学の一助とする。

○高校訪問【対象：高校教諭】

県内農業関係高校や普通高校を訪問し、農業大学校を紹介するとともに各種行事への参画推進を図る。

表 過去の事業実績

		H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2
緑の学園	定員	30	30	30	30	30
	参加者数	23	22	28	16	
	うち農大入学者	6	10	7	(R3入学)	(R4入学)
一日体験入学	定員	60	60	60	60	
	参加者数	49 (内学生34)	50 (内学生38)	49 (内学生32)	41 (内学生29)	
	うち農大入学者	22	20	21	(R2年入学)	
学校見学会	参加者数	22	17	24	40	
	うち農大入学者	9	10	8	(R2年入学)	

※：平成30年入学

(3) 県負担・補助率の考え方

協同農業普及事業交付金を財源の一部とする

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	32	青年農業者事例発表講師謝金
旅費	75	講師旅費(緑の学園) 業務旅費(県内高校等連携)
需用費	202	
消耗品費	120	実習体験材料、文房具費
会議費	52	参加者昼食代、お茶代
印刷製本費	30	パンフレット印刷代
役務費	6	通信運搬費
使用料及び賃借料	0	
合計	315	

決定額の考え方

財政課で記載します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・長期構想
 - Ⅱ-2 儲かる農業・林業・畜産業を実現し、持続可能な農山村をつくる
 - ・農業の担い手を育成・確保する
- ・ぎふ農業・農村基本計画
 - 第5章1 多様な担い手づくり
 - (7) 農業大学校・国際園芸アカデミーの人材育成機能の強化

(2) 国・他県の状況

- ・岐阜県を含む42道府県が農業大学校を設置

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

農業大学校入学希望者等を対象に、体験学習等を実施し、農業及び農業大学校への関心を高め、入学生の確保を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
入学者数	32人 (H29)	29人 (H30)	28人 (H31)	27人 (R2)	30人 (R3)	90%

○指標を設定することができない場合の理由

(前年度の取組)

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

農業大学校入学希望者等を対象に、見学会、体験学習会を実施した。

＜実施内容＞

- ・緑の学園 対象：高校2年生等 参加者数：26名（定員30名）
- ・学校見学会 対象：高校3年生等 参加者数：26名
- ・一日体験入学 対象：高年3年生等 参加者数：66名（定員60名）
(学生46名、保護者20名)

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

参加者に、農業大学校の事業内容等を理解し、関心を高めてもらうことが出来た。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
(評価) ○	入学者確保のためには、広く農業大学校を理解してもらうことが必要であり、体験入学や見学会は、実際に入学希望者や一般の高校生に農業大学校を見て、体験してもらうことができる機会であるため、今後も継続して推進する必要がある。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	実際に入学した学生の内、多くの学生が過去に見学会や体験入学等に参加しており、一定の効果があるものと思われる。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
(評価) ○	様々なニーズに効率的に対応できるよう、高校生の学年や農業大学校への関心の度合いに合わせた内容が定められている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 緑の学園、一日体験入学の開催方法を見直し、参加者数を増加させることで、農大への関心を高め、受験者の増加につなげる。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県内高校へ職員が積極的に訪問し、農大のPRや事業内容の理解促進活動を行うことで、農大に興味を持つ学生を増やし、体験入学等の参加者増を図る。
--